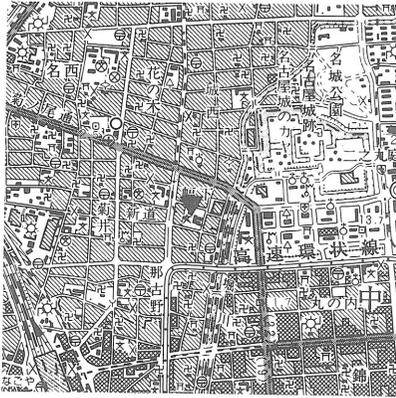


愛知・幅下遺跡

はばした

- 1 所在地 愛知県名古屋市区幅下一丁目
- 2 調査期間 第四次調査 一九九五年(平7) 四月～八月
- 3 発掘機関 名古屋市教育委員会・名古屋市民見晴台考古資料館
- 4 調査担当者 村木 誠・服部哲也・水野裕之
- 5 遺跡の種類 近世城下町跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(名古屋北部)

幅下遺跡は、名古屋城(標高約二二m)西側に広がる沖積低地面のうち、自然堤防や砂州堆積物からなる微高地(標高約一・五m)に位置している。この微高地の範囲は、江戸時代の名古屋城下町北西部の範囲ともよく一致している。本遺跡は、一九八〇年の幅下小学校体育館基礎補強工事の際に発見されたものであり、一七世紀後半に城下町の低地部に造られた「巾下水

道」の上下施設の一部と思われる木樋などが検出されている。その後、校舎の改築時に発掘調査が行なわれ、近世城下町のうち武家地と町人地の一部が検出された。低湿地である関係で木製品も遺存していた。

今回報告する木簡が出土した第四次調査は、体育館建設に伴う事前調査であり、一五〇〇㎡を対象に行なわれた。調査地点は、一九二九年の居住者地図によると「ミソ・タマリ、井桁屋、森本…」とあり、子孫の方によると江戸時代から代々当地で酒造などを営んできたという。また、一八世紀前半頃の城下町絵図と明治時代の地籍図とを合わせると、道路と武家地、町人地の敷地割がよく一致し、調査地点は、道路を含む町人地の一部であったと推定される。

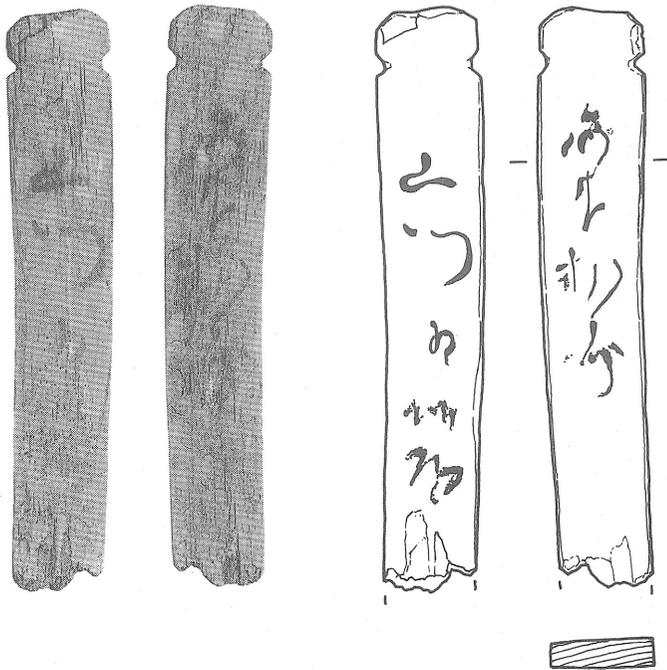
発掘調査の結果、米や大豆を蒸すなど醸造作業と関係したと思われる竈状遺構や、上水井戸・木樋・竹管などの上水遺構が検出された。

木簡が出土した遺構P二四は、楕円形(長径一m短径六〇cm深さ六〇cm)の小土坑である。木簡は、一七世紀中頃の瀬戸美濃産陶器碗・鉢片を含む埋土の下部から、下駄とともに検出された。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「御下物」

・「ニツゐ」
〔桁屋カ〕



9 関係文献

名古屋市教育局「幅下小学校遺跡―第四次発掘調査の概要―」(一九九六年)

(水野裕之)